

「わたしと歴民 ～地域文化や施設環境と向き合う～」

瀬戸内海歴史民俗資料館 専門職員
木内 英博

1. 瀬戸内海歴史民俗資料館の中で、私が一番好きなものを紹介します！！



2. 瀬戸内海歴史民俗資料館における県内民俗資料保管状況確認調査について

・なぜ、調査が必要なのか？

→いざという時に、迅速で正確な資料の救済をすることが難しいから。

・具体的には、どういった調査を行ったのか？

・県内、何カ所の施設を確認したのか？

・調査で苦労したことは？



・なぜ、歴民がこうした調査を行うのか？

→長い実績をもつ中核施設であるから。

→民俗資料は、地域の歴史や特徴、また、人々をつないでいるものであるから。

・調査により、わかったこと（気付いたこと）

→身近にあったもの、現在、身近にあるものが大切なものです！！

・歴民がすべきことは？

→地域の方々と一緒に、地域にある資料を次の世代へつなげていくこと。

・私がすべきこと

→地域にある資料の価値とその意味を皆さまに知っていただくこと。

・「香川のお宝民俗資料蔵出し展2」について紹介します！！



3. 私の働き方改革

テーマは、「自分の障がいを周囲に知っていただいた上で、働くべきなのか？」

・以前の職場で抱いていた心の葛藤と、現在の職場（歴民）でもっていた心の葛藤

・外見上はわからない障がい者（見えない障がいがあるもの）がもつ共通の思いを知っていただきたいです。

・働く上で、大切にされるべきだと考えること

→その職場で、本人（私）がこのように働きたいという思いではないでしょうか。



2018年3月25日

「わたしと瀬戸芸と子どもたちと中学校美術」

香川県立ミュージアム 主任専門学芸員
橋本 武生

はじめに

ミュージアムに勤務して2年、以前は長年中学校で美術を担当していました。美術科として美術の良さ、面白さを伝えたいと取り組んできましたが、依然として学校の中での美術は影の薄い存在です。前任校、紫雲中学校での10年間では瀬戸内国際芸術祭（以下、瀬戸芸）などに美術部の子どもたちと関わる中で私自身に新しい発見や気づきがあり、美術部の活動も変化していきました。その一端をお伝えし、少しでも美術のプラスイメージにつながればと思います。

1. 現在も変わらない美術（部）に対するイメージ

- (1) マイナスイメージが多い美術
 - ・子ども（美術部以外）・大人（他教科教師や保護者）
 - ・美術部が頑張っても評価されない
- (2) 美術の良さが伝わらない理由

2. 瀬戸芸との出会い

- (1) 高松うみあかりプロジェクト（2010～）
- (2) 現代源平合戦絵巻（屋島）
- (3) 瀬戸芸2013（2012～）「オニノコ瓦プロジェクト」

内 容＝県内中学校35校、約3000人が制作した鬼瓦を女木島大洞窟に展示。会期中のワークショップ、清掃ボランティア、お接待、会期外の展示のメンテナンスを数校の美術部で担当

プランナー＝香川大学教育学部附属高松中学校 金丸高士先生

3. 意識の変化

瀬戸芸で何がおこっているのか。なぜ注目されるのか。なぜ瀬戸芸にたくさんの人が集まるのか。たくさんの人が現代アートを観るためだけに島に渡るのか？

- ・1つの作品をみんなで作る、一つのテーマでみんながつくることの価値とそこで生まれる人と人とのつながりに価値がある（アーティストと島民と訪れる人たちとの交流）
- ・人が集う空間に作品がある。作品は交流の場をつくるために脇役となって活躍する
- ・瀬戸芸のイメージは美術教育（教育現場）に合致する

4. 学校の中の美術（部）への理解を深めていくには

瀬戸芸のイメージを美術教室に置き換えて

- ・美術が個人の表現重視から作品を通して、また部の生徒が他に対して役に立つ活動へ
- ・「生徒に作品をつくらせる」→「生徒がつくった作品をどうするのか」
- ・いい作品をつくる→他とつながるための制作や活動をする
 - ー子どもたちが役に立ったと実感できれば作品の完成以上の達成感にもつながる

5. 生徒の活動の変化

(1) チームづくりと意識の共有

- ・美術部ユニフォーム（つなぎ）
- ・美術部コンセプトの設定＝
つなげる -2013- 結ぶ -2014- HEART LINK -2015- IMAGINE -2016-
- ・作品づくりの前に
＝「何をつくる」→「何のためにつくる」「何とつなげる」

(2) 学校（全校生徒）とつなげる。

- ・学校生活向上プロジェクト＝なかまづくりをメッセージにポスターを制作
－生徒会と協力したり、制作者が協力したりしながらつくる
－発信力のアップのためターゲットがポスターづくりに参加する
－たくさんプリントし、展示、教室掲示を依頼する
- ・なかまづくりをイメージする作品づくりと校内展示
－生徒作品を校内に展示
－美術作品を通して学校を豊かな空間に

(3) 地域とつなげる。

- ・マナーアップリーダーズ（県警少年課）
－缶バッジづくり（学校、地域へ配布）やデザインで協力
- ・地域活性化プロジェクト
－コミュニティーセンターとの交流と共にポスター制作、配布
- ・部展の開催（サンクリスタル、かがわプラザ）
－作品展示とワークショップによる地域の人との交流
－他校の美術部との交流
－東日本大震災の被災者とつなげるため展覧会の会期に 3.11 を入れ、共同制作やワークショップに

(4) 個人制作への影響

- ・全国中学校美術部作品展（アートクラブグランプリ in SAKAI）
－美術部コンセプトを意識した作品づくり
－個人制作（希望者）が、全員制作するようになり、みんなでがんばろうという雰囲気
－評価される作品が増え、次作品への意欲へ

6. ミュージアムで

- ・郷土の魅力発信プロジェクト「さぬきる!!」
－「自分が生活する地域の魅力」をテーマにした切り絵作品を県内全中学校、特別支援学校中
学部へ制作依頼
－県内 40 校、約 4000 人が美術部活動、授業で制作（全校生徒が制作した学校 5 校）
－特別展「讃岐びと 時代を動かす」に連携して展示
－中学生が運営するワークショップの開催（4 校参加）

7. まとめ

当然、個人が追求する美術もあります。しかし、美術教育はアーティストを育てることではなく、また同じようにミュージアムでも美術、歴史のよさや面白さを伝えていく場です。その中で、「何をみせるのか」でなく「何とつなげるのか」から考えると先が見えてくるような気がしています。私は、ターゲットが子どもたちからさらに幅広い層へと広がりましたが、県民の皆様とミュージアムをつなげていくことができたらと思っています。

「わたしと伊勢御師 ー御祓大麻から足跡をたどるー」

香川県立ミュージアム 主任専門職員
織野 智子

1 伊勢御師への取組み

- ・「伊勢御師が見た讃岐」展 (解説シート参照) 4人の伊勢御師を紹介
→ 本日はその1人南倉大夫について

2 伊勢御師に関する基礎用語

- ・道者 檀那・旦那・檀家
- ・檀所 道者の居住地
- ・廻檀 年に1度、道者を訪問すること
- ・御祓大麻 御祓い箱
- ・初穂料 廻檀時に道者から伊勢御師に支払う金銭や物品
- ・御師株 御師になるための権利
- ・御祓い銘 営業上の御師銘
- ・銘醸 御祓い銘の売買

3 ユニークな御祓大麻

- ・粟島で幕末期の廻船問屋「網屋」徳茂家で発見された御祓大麻
→ 「揚船御祈祷」の銘
他に類例なし

4 南倉大夫紹介

①足代(南倉)大夫の檀所と御祓い銘

東京市・東京市・尾張・美濃・三河・遠江・伊勢・志摩・因幡
讃岐国(三野郡・豊田郡)
伊予国(宇摩郡)
土佐国(土佐郡・長岡郡)
阿波国(三好郡)

「足代玄蕃」のはず

足代銘・南倉銘あわせて7つの御祓い銘

②南倉大夫のプロフィール

- ・元の姓：足代
- ・御師株を取得し御師となる。← 都市地下人からの転身
- ・銘醸により御師「南倉」を名乗る。→ 足代銘と南倉銘両方使用
- ・三方年寄

裏面につづく

5 南倉大夫の御祓大麻への思いを追って

取材先① 廻船問屋「網屋」徳茂家

→ 神棚から「揚船御祈祷」入りの御祓大麻が発見された。

取材先② 粟島伊勢神宮

・多くの船絵馬奉納 → 「廻船の島」 → 海上信仰

・幕末～明治初期の

粟島廻船の役割

3～4月に北海道移民のための物資を廻漕

大坂の綿織物・反物・日用品など

四国の煙草・塩・砂糖など

9～11に四国・大坂へ海産物を廻漕

粟島で鰯・鮭・鱈 荷下ろし

大坂や鰯粕・干鰯・魚油（綿花栽培の肥料）

粟島港の役割

四国・大坂と北海道廻漕航路の中継点

（須田からの四国の物資は粟島にて積換え）

理由 天然の良港

（島の南 島や半島に囲まれる。→ 西風・東風を受けない。）

参照 「西南諸港報告書」よりのデータ

北海道へノ船舶	400石積以上	500隻
戸口	（明治14年1月）	313戸
人口		1,331人
物産問屋仲買人		20戸

「揚船御祈祷」に込められた意味とは？

6 わたしと伊勢御師

伊勢御師に対する思い